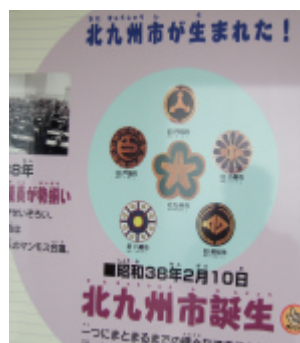


## 「元気発進！北九州」プラン

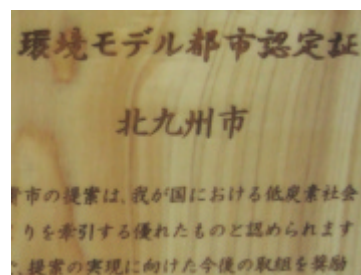
北九州市役所で入手した「元気発進！北九州」プランという北九州市基本構想・基本計画の中から、「未来創造宣言」の一部を紹介しよう。「高度成長期の1963年には、将来の地域の発展を展望して、世界に例のない、5つの個性を持った都市の対等合併が行われ、本市が誕生しました。これは、地方自立の先進モデルとなりました。」



このように北九州市は、1963年に門司・小倉・若松・八幡・戸畑の5市が合併して誕生した。合併後ただちに政令指定都市となる。近代以降、筑豊の豊富な石炭を背景に、若松は日本一の石炭積出し基地として成長、八幡では官営八幡製鐵所が建設され、のちに工場は戸畑まで拡張。門司は交通の要衝として重要な役割を果たしてきた。合併当時の人口は104万人だが、現在は98万人であり、指定都市になった頃より減少している。1972年に指定都市になった福岡市は、逆に85万人から145万人に60万人も増加している。北九州と福岡の違い、合併から45年余りを経過した北九州市の問題状況が人口動向から読みとれる。



未来創造宣言では、地域の担い手を育み、世界に発信できる文化を創造するとともに、都市ブランドとしての「世界の環境首都」や「アジアの技術首都」に磨きをかけ、環境と産業が調和した低炭素社会づくりに取り組むとしている。北九州というと「公害のまち」をイメージするが、『北九州の環境』にも、公害を克服し世界の環境首都をめざす取組が紹介されている。北九州市は2008年7月、国から「環境モデル都市」に認定され、09年3月に行動計画「北九州グリーンフロンティアプラン」を策定した。「北九州ブランド」に注目していきたい。



(2010年3月31日 記)